

科目名	世界史（近現代）	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	小山田 紀子	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-A-1-110037	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	この講義では、西洋史とくにフランス近現代史を取り上げる。18世紀末におこったフランス大革命は世界史上で人類を近代へと導く重要な転換点を画する事件であった。革命による国民国家と近代市民社会の形成をたどり、フランス革命が世界に与えた影響を見る。次に19世紀後半以降はフランス植民地拡張という帝国主義の時代に入るが、二つの世界大戦を経てフランスは戦後、植民地の民族運動に対峙せねばならなかった。イギリスとフランスの二大植民地帝国は1950～60年代に崩壊過程をたどり、旧植民地の新興独立諸国は第三世界を形成することになる。しかし、政治的独立を達成した新興国も経済的には多くの困難を抱え、今日の開発途上国と先進国の関係は半世紀たった今も南北問題として現れている。植民地の残滓ともいえる諸問題が、旧宗主国の先進国と旧植民地の開発途上国双方において見られるのである。ここではとくにフランスとマグリブ（北西アフリカのアルジェリア・チュニジア・モロッコの三国）との関係を先進国-開発途上国関係の一つの事例として取り上げることにした。以上のような視点は現代世界を理解していく上で極めて重要であり、国際学部の他の授業を理解していくうえでの歴史の見方を提示できるであろう。				
学修到達目標	国民国家とは何か、という視点から歴史を見る目を養い、グローバル化の進む現代世界における人間のあり方、個人の生き方について考える姿勢を獲得してもらいたい。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	絶対王政の成立と破綻—1578年から200年間の絶対王政の時代を、5人の王の政治を中心にたどる。
第2回	フランス革命とナポレオン帝国 1) フランス革命—近代国民国家を生み出したフランス革命とは何かを、10年間の展開過程からたどる。
第3回	フランス革命とナポレオン帝国 2) ナポレオン帝国-フランス革命の継承者としてのナポレオンの政策を多角的に見ていく。

第4回	名望家支配の時代（王政復古と7月王政）－ブルボン朝の復古王政と1830年からの7月王政とは何であったのかを分析する。
第5回	第二帝政の時代（ナポレオン3世）－フランス産業革命が本格化したナポレオン3世の時代を、権威帝政の1850年代と自由帝政の1860年代に分けてみていく。
第6回	第三共和政と帝国主義の時代 1) 第三共和政の形成－普仏戦争の敗北により瓦解した第2帝政の後、第3共和政はどのように生み出されたのか、また近代市民社会を生み出す様々な政策を見る。
第7回	第三共和政と帝国主義の時代 2) フランス帝国主義－フランスの近代化と国民国家の形成の時期は、他方ではフランスの植民地が拡張した時代でもある。フランスの敵国主義の特徴を明らかにしていく。
第8回	二つの世界大戦－戦争の時代を今日的視点から見る。
第9回	戦後復興と植民地戦争 1) 繁栄の30年－戦後復興は植民地からの移民政策とともに進められた。高度経済成長は植民地からの移民によって支えられた。しかしやがて脱植民地化の時代が訪れる。
第10回	戦後復興と植民地戦争 2) インドシナ戦争からアルジェリア戦争へ－インドシナ戦争とアルジェリア戦争についてみることで、つまり脱植民地化のありようを分析することで、フランス植民地の特徴をあぶりだす。
第11回	戦後復興と植民地戦争 3) ドゴールと第五共和政－ドゴールの政権復帰はアルジェリア戦争の解決のためであり、彼が第五共和政という大統領権限の強い政治体制を生み出したのである。アルジェリアを独立させたのはドゴールの大きな業績でもある。アルジェリアの独立によって、フランス植民地帝国の時代は終焉する。
第12回	1974年以後のフランス 1) ジスカールデスタンと移民問題－1974年以降フランスの移民導入は停止され、移民の定住化によって移民の2世・3世の問題が起こってくる。
第13回	1974年以後のフランス 2) ミッテランの政策－戦後初めての社会党政権の時代を概観する。

第14回	1974年以後のフランス 3) シラクからサルコジ、オランドそしてマクロンへ-今日の3人の大統領の時代の特徴を明らかにする。
第15回	定期試験(レポート)
第16回	第5回目のあとに中間レポートを課す。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習はテキストを読んでくる。フランスについてアプローチする。2時間を要する。
【復習】時間・内容	復習は、その日に学んだことをテキストを読んでノートにとって理解を深める。必要時間は2時間。

成績評価	
評価基準・方法	中間レポート(30点)、期末試験-レポート-の点数(70%)、を合わせて総合的に判断する。各授業でコメントペーパーを書いてもらい、次回の授業で、そのコメントペーパーの紹介、質問に答えるなど、教員と学生の双方向的な授業を行っているのので、2つのレポートにすべてが表現できる試験問題を工夫している。したがって、定期試験(2回のレポート)の評価を重視する。
フィードバック方法	試験(レポート)の講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	
教科書/参考書	教科書 佐々木真『図説 フランスの歴史』河出書房新社 参考書 谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』 ミネルヴァ書房、2017年 バンジャマン・ストラ著、小山田紀子・渡辺司訳『アルジェリアの歴史』 明石書店、2011年10月 その他、授業の中で適宜指示する。
受講上の留意点等	人間や社会に関心を抱き、想像力をもって歴史の本を読むこと。
JABEE	